

## 放課後児童クラブの生活環境整備に関する研究 その8 KA市放課後児童クラブにおける台所空間計画の変遷

A Study of Living Environment in Clubs for After School Activities for Children  
— Changes in Kitchen Plans of Clubs for After School Activities  
for Children in KA City —

鈴木 佐代

Sayo SUZUKI  
福岡教育大学家政教育講座

福永 美紗

Misuzu FUKUNAGA  
福岡教育大学卒業生

豊増 美喜

Miki TOYOMASU  
大分大学大学院工学研究科

秋武 由子

Yoshiko AKITAKE  
福岡教育大学非常勤講師

(平成28年9月29日受理)

### Abstract

The goal of this study is to qualitatively improve the living environments in clubs for afterschool activities for children. In this study, a time series analysis was conducted of the floor plan of 12 club houses for children's afterschool activities in KA City, Fukuoka Prefecture that were constructed between 1992 and 2006, to clarify the requirements for kitchen spaces from changes to the floor layouts (improvement points).

Depending on the year of construction, the surveyed club houses changed in terms of the scale of the kitchen spaces and methods for connecting them to the spaces for children (the layout of the kitchen sinks, the counters and the serving tables).

This analysis clarified that when planning the kitchen spaces in children's afterschool club houses, it is necessary to consider the flow of movement of the instructors and children at snack time; that serving tables play an important role; and that it is also necessary to have a space configuration that connects the instructors in the kitchen to the children in other spaces.

Keywords : clubs for after school activities for children, after-school child care center, plan, snacks, kitchen

## 1 諸言

児童が放課後や学校休業日を過ごす放課後児童クラブ（いわゆる学童保育所）は、家庭に代わる生活の場であり、おやつが提供されている。全国学童保育連絡協議会では、おやつを放課後児童クラブの一日の生活の流れの中に位置づけており<sup>1)</sup>、同協議会の2012年調査によると、96.3%の施設でおやつがある<sup>2) 注1)</sup>。しかし、おやつ提供のために必要と思われる台所について、専用の台所設備がある施設は64.3%に留まっている<sup>2)</sup>。

2012年の子ども・子育て関連3法による児童福祉法の改正により、放課後児童クラブは、「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（厚生労働省、2014年）に基づいて定められる市町村の条例、および「放課後児童クラブ運営指針」（厚生労働省、2015年）に基づいて運営されることとなった。同運営指針では「子どもにとって放課後の時間帯に栄養面や活力面から必要とされるおやつを適切に提供する」「おやつの提供に際しては、安全及び衛生に考慮するとともに、子どもが落ち着いて食を楽しめるようにする」とされているが、同基準では、おやつ提供のための台所空間や設備の基準は示されていない。また、同基準より先に、放課後児童クラブの望ましい方向を示すものとして策定された「放課後児童クラブガイドライン」（厚生労働省、2007年）においても、台所空間のあり方は示されていない。

放課後児童クラブや学童保育所の施設空間については、宮本・岩淵<sup>3)</sup>、清水ら<sup>4) 5)</sup>、山崎・定行<sup>6) 7)</sup>、山田ら<sup>8) 9)</sup>、中川ら<sup>10) 11)</sup>、中園ら<sup>12) 13)</sup>により、平面構成のモデルや必要面積の策定等をめざした研究が進められている。しかし、これらの既往研究の中で、台所空間について言及しているのは、宮本・岩淵の研究のみである。宮本・岩淵は、室内の活動機能と平面構成の対応を考察し、学童保育施設は、トイレ、保育、静養、キッチン、事務、更衣の6種の活動機能スペースで構成され、キッチンスペースは、保育スペース、事務スペースとは別に、それぞれ直接繋がる形で設けるのが望ましいと述べている<sup>3)</sup>。

一方、筆者らは、既報において、台所とおやつを食べる空間との間に、おやつを並べる机（配膳台）が置かれる実態<sup>14)</sup>や、おやつは衛生面に配慮して台所内に保管されており、児童数に応じた冷凍、冷蔵、非冷蔵の各保管スペースが台所に必要であること<sup>15)</sup>を明らかにした。

以上のように、放課後児童クラブのおやつは、

児童にとっては栄養補給や精神的な楽しみ、指導員にとっては毎日の重要な保育（業務）として、クラブの生活のなかで大きな位置を占めている。しかし、施設計画において台所空間の具体像は示されていない。

## 2 研究の目的と方法

### (1) KA市の放課後児童クラブの特徴

福岡県KA市では、12の小学校すべてに台所のある専用施設が設置されている。調理せずにそのまま提供する市販品のおやつその他、冷凍食品にひと手間加えたおやつや、指導員による手作りのおやつも提供している<sup>15)</sup>。

KA市では、1978年の第1号の学童保育所開設以降、小学校空き教室やプレハブの建物を利用して、開設数を増やして来たが、保護者の環境改善要望を受けて、1992年からはログハウスのクラブ舎が建設されるようになった<sup>16)</sup>。ログハウス舎は、利用児童数が増加した1992年から2006年にかけて12の小学校に、ほぼ年に1棟のペースで建設された（図1）。クラブ舎の設計に関し、「各クラブの父母と指導員とが話し合い、既存のログハウスの使い勝手等から新たな要望を加え、改良が重ねられた」とされる<sup>16)</sup>。

このような経緯から、KA市の12棟のクラブ舎は、構造や外観、平面構成に共通する基本形があるものの、内部の平面構成（特に台所空間）は建築年によって変化しており、その変化過程を比較できるという点で建築計画学的に大変貴重なクラブ舎となっている。

### (2) 研究の目的

本研究では、放課後児童クラブの台所空間に求められる要件を明らかにすることを目的として、前述のKA市放課後児童クラブ12か所、12棟を対象に、平面図の時系列分析を行う。12棟の平面構成の変化過程からは、建築当時の指導員や保護者の要望等を読み取ることができると考えられ、得られた知見は、クラブの生活に視点を置いた施設計画として、クラブ舎の新築や改修に活かすことができると考える。

なお、12棟のクラブ舎は、竣工から現在までの間に2階の増築やトイレの改築などが行われ、これらの増改築によっても平面構成は変化している。本論文では、新築時の平面構成のみを分析し、増改築による変化は今後の研究課題とする。

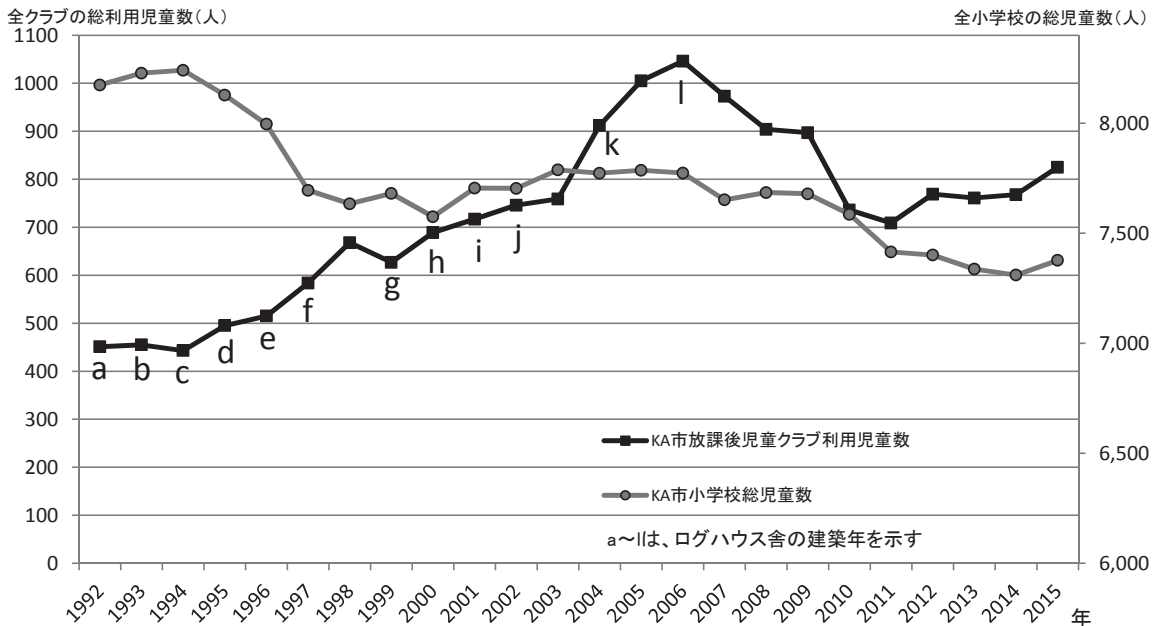


図1 KA市の小学校総児童数、放課後児童クラブ利用児童数とa~lクラブのログハウス舎建築年  
 小学校総児童数、放課後児童クラブ利用児童数は、文献18による  
 ログハウス舎建設年は、文献17による

### (3) 調査概要

KA市健康福祉部子育て支援課からクラブ舎の建築図面を収集し（2013年9月）、台所空間に着目して平面構成の時系列分析を行った。台所空間と施設全体の空間計画につなげるため、台所の規模および台所と他スペースとのつながり方について考察する。

### (4) 調査対象施設の概要

調査対象は、KA市小学校敷地内にあるログハウスのクラブ舎である。調査対象クラブを建築年順<sup>17)</sup>にa~lクラブとし、建築当初の概要を表1に、代表例a, d, g, lクラブの平面図を図2の(1)~(4)に示す。

a~eの5クラブは1階建て、f~lの7クラブは2階建てである。1階は、全クラブ共通して、29.70m<sup>2</sup>の4つのエリアから構成される田の字型プランで、1階延床面積は118.80m<sup>2</sup>である。図2に示すように、台所とトイレがあるエリアを(A)、出入口と手洗い場があるエリアを(B)、その他のエリアを(C)(D)と称す。(B)(C)(D)が児童が過ごす空間であり、各エリア間には建具等の間仕切りはない。2013年の調査時点では、事務スペースは(B)に設けられている。

各クラブ舎新築当時の想定利用児童数は不明で

あるが、各竣工年の児童数は33~80人までさまざまである（表1）。クラブ舎新築後、ほとんどのクラブで児童数が増加し、100人を越えたクラブもあった<sup>18)</sup>。児童数が多いクラブでは、プレハブ造の第2クラブをつくり、クラブを分割したため、2013年時点のログハウス舎の児童数は38~79人となっている<sup>18)</sup>。

なお、クラブの建物はKA市の所有であり、2003年以降のクラブ運営は、市から指定管理者の指定を受けたNPO法人が一括して行っている<sup>注2)</sup>。

## 3 結果および考察

### (1) 台所規模の変化

台所の面積は、初期のa~eクラブは7.20~9.99m<sup>2</sup>であったが、その後に建築されたf, gクラブは12.60m<sup>2</sup>に、さらにその後のh~lクラブでは13.80m<sup>2</sup>へと拡大した（表1）。これに伴い、流し台の幅（ガスコンロ、作業台含む）も、2500~2700mm（a~eクラブ）から3400~3600mm（f~lクラブ）へと大きくなった。

初期の小規模な台所の例としてdクラブ（図2-(2)）、広くなった台所の例としてgクラブ（図2-(3)）の平面図を比較すると、台所前のホールを吸収する形で台所が拡大したことがわかる。

表1 クラブ舎の新築時の概要と台所空間

クラブ名	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
ログハウス舎建築年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1999年	2000年	2001年	2002年	2004年	2006年
ログハウス舎建築年の 児童数(人)	40	58	53	67	48	44	33	80	39	74	79	56
1階床面積 (㎡)	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80
2階床面積 (㎡)	—	—	—	—	—	59.40	61.20	62.40	62.40	61.20	62.60	62.62
延床面積 (㎡)	118.80	118.80	118.80	118.80	118.80	178.20	180.00	181.20	181.20	180.00	181.40	181.42
台所面積 (㎡)	9.99	8.64	8.64	8.64	7.20	12.60	12.60	13.80	13.80	13.80	13.80	13.80
流し台幅 (mm)	2700	2700	2600	2500	2500	3600	3400	3500	3450	3600	3450	3450
台所流し台の向き	外	外	ホール D室	ホール D室	ホール D室	D室	D室	B室 出入口	B室 出入口	B室 出入口	B室 出入口	B室 出入口
台所と(B)とのつながり方	カウンター	カウンター	カウンター	カウンターと 配膳台	カウンターと 配膳台	カウンターと 配膳台	カウンターと 配膳台	流し台	流し台	流し台	流し台	流し台
台所と(D)とのつながり方	カウンター	カウンター	流し台	流し台	流し台	流し台	流し台	配膳台	配膳台	配膳台	配膳台	配膳台
配膳台寸法 (mm)	—	—	—	1400×450	1400×500	1950×500	1950×400	2100×800	2150×800	2150×900	2250×900	2250×1000

注)ログハウス舎建築年の児童数は、文献18による。  
延床面積や寸法は、建築図面から得た。2階床面積は新築時のものであり、階段を含まない。

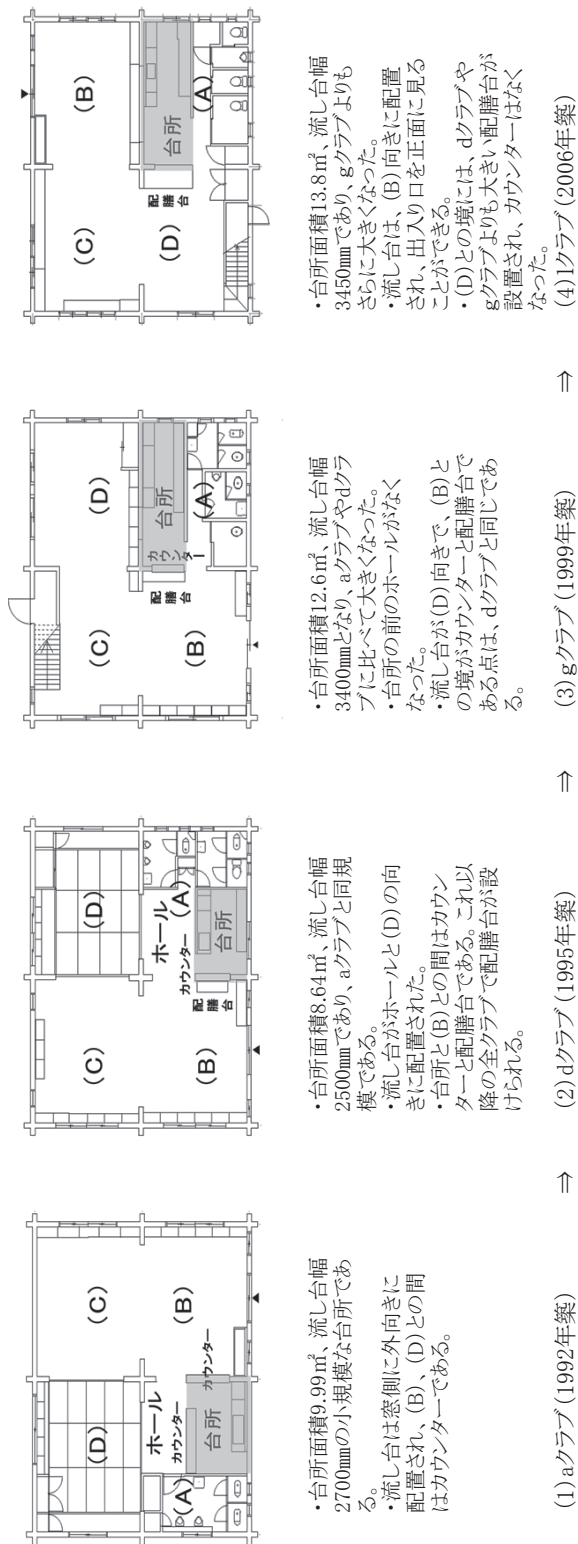


図2 クラブ舎の平面図と台所空間の変遷





写真1 カウンターの外側に配膳台がある例 (dクラブ)



写真2 大きな配膳台の例 (1クラブ)

ホールがなくなり台所が広がったのと同時期に、2階建てのクラブ舎が建設されるようになったことから、台所の規模拡大の背景には、児童数の増加があったと推測される。また、同時期に身障者便所が設置されるようになっており、トイレのバリアフリー化も台所、ホールを含む(A)エリアの平面構成を見直す契機となったと考えられる。

## (2) 台所と他スペースとのつながり方の変化

1階は田の字型プランであるため、台所のある(A)は、(B)、(D)と隣接する。台所と(B)、(D)とのつながり方、および流し台の向きを見ると、初期のa、bクラブでは、流し台は小学校校庭が見える外向きであり、(B)、(D)との間は、カウンターである(図2-(1))。その後のd、eクラブでは、流し台が(D)向きに設置されるようになり、(B)との間はカウンターに加えて配膳台が設置されている(図2-(2))。fクラブ以降は、前述したようにホールがなくなり台所面積が拡大するが、f、gクラブでは、流し台が(D)の向きで、(B)との間がカウンターと配膳台である点はd、eクラブから変化していない(図2-(3))。h~1クラブでは、流し台は(B)の向きに配置され、出入口を真正面にみるようになるようになっていく。また、(D)との間にカウンターは設けられなくなり、代わって大きな配膳台が設置されている(図2-(4))。

以上より、台所空間の2面、つまり(B)、(D)との境は壁ではなく、流し台やカウンター、配膳台のいずれかが設置されている。しかしこれら3つのうち、どれをどの向きに配置するかは変化しており、流し台の向きは、外向き→(D)向き→(B)向きに変化した。最終的に出入口のある

(B)の向きに落ち着いたのは、台所にいる指導員がおやつを準備しながら、児童の出入りを見通すことが重視されたためと考えられる。

また、カウンターに代わって配膳台が設置されるようになった点も大きな変化である。配膳台については次節で考察する。

## (3) 配膳台の設置とサイズの変化

前述したように4棟目のdクラブより、おやつを並べたり、食器を返却したりする際に使用する配膳台が設けられた。d~gクラブではカウンターと配膳台の併設型であり、カウンターに接して(B)側に配膳台が設置されている(図2-(2)(3)、写真1)。このタイプの配膳台は、幅が広く(1400~1950mm)、奥行きが小さい(400~500mm)(表1)。

その後のh~1クラブでは、カウンターはなくなり、配膳台のみとなった(表1、図2-(4))。カウンターが設けられなくなると、配膳台は、幅、奥行き共に大きくなり、最後の1クラブでは2250mm×1000mmとなった(写真2)。また、配膳台の高さは、カウンターより低く、750mm(d~jクラブ)や650mm(k、1クラブ)である(写真1,2)。

台所と児童が過ごすスペースの間に設置されるようになった配膳台は、おやつを提供する指導員の動線と、おやつを配膳や片付けを行う児童の動線を考慮した結果と思われる。配膳台の寸法は、児童数や並べるおやつを、高さは児童の身体寸法を考慮して改善されたと考えられる。

## 4 まとめ

放課後児童クラブの台所空間について検討するため、福岡県KA市の建築年の異なる12棟のク

ラブ舎を対象に、平面図の時系列分析を行った。結果を以下にまとめる。

各クラブ舎の台所の面積は7.20m<sup>2</sup>～13.80m<sup>2</sup>であり、建築年が後になるほど大きい。台所の規模拡大の一因に児童数の増加があったと思われる。

台所空間と児童のスペースは、壁で隔てられるのではなく、流し台やカウンター、配膳台等を介して半オープンにつながるよう計画されている。その中で、流し台の向きは外向き→室内向き→出入口が見える向きへと変化し、また配膳台がカウンターに取って換わり、さらにその寸法が拡大するという変化が見られた。台所空間と児童のスペースのつなぎ方が模索され、改善されたことが窺える。

これより放課後児童クラブの台所空間は、調理や食材保管の機能のほか、指導員がおやつを提供する、児童がおやつを受け取る・食器類を返却するといった動線を考慮する必要があり、配膳台が重要な役割を持つと言える。また、台所は、安全性の観点から児童の立ち入りを制限しつつも、台所にいる指導員と他スペースにいる児童がつながる空間（例えば、様子が見える、会話できる等）であることが求められていると言える。

望ましい台所空間のあり方は、児童数や指導員数、保育方針等によって異なり、モデルは一つではないが、今回の調査事例における平面構成の変化（改善点）は、放課後児童クラブの施設計画において参考にすべき点が多いと言える。

今後は、関係者へのヒアリング調査や、後に行われた改築についての分析を加え、クラブ舎全体の変遷過程から、施設計画のあり方に示唆を得る知見を得たい。

本研究は、平成25～27年度科研費（基盤研究（C）：25350048 研究代表者 鈴木佐代）の助成を受けた。

本研究は、福永美紗氏の2013年度福岡教育大学卒業研究をもとに、筆者が再分析を行ったものである。

#### 補注

注1) おやつがある施設の割合には、「指導員が仕事として提供」以外に、「保護者が用意し、指導員が提供」と「各保護者が学童保育に届ける」を含む。

注2) 保護者が中心となってNPO法人を運営している。1995年から2003年までは、その

前身のKA市学童保育連合会が一括運営していた。文献17)による。

#### 引用文献

- 1) 全国学童保育連絡協議会「テキスト学童保育指導員の仕事」p.50（2010年）
- 2) 全国学童保育連絡協議会「5年ぶりの学童保育の詳細な全国調査報告」（2013年3月報道発表資料）  
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/2012jittaityousa.pdf>
- 3) 宮本文人、岩淵千恵子「学童保育施設における活動機能と平面構成」日本建築学会計画系論文集、第618号、pp.25-31（2007年8月）
- 4) 清水肇、小野尋子「学童保育施設の生活空間構成の実態 那覇市、浦添市における高密度事例を中心とした分析」日本建築学会計画系論文集、第76巻、第668号、pp.1799-1806（2011年10月）
- 5) 清水肇「学童保育施設における過ごし方の多様性と空間構成 コーナーのある一室型施設における過ごし方の事例検討」日本建築学会計画系論文集、第81巻、第722号、pp.811-819（2016年4月）
- 6) 山崎陽菜、定行まり子「子どもの行為からみた学童保育所の空間のつかわれ方－児童館内施設と小学校内施設を対象として－」日本建築学会技術報告集、第18巻、第39号、pp.657-662（2012年6月）
- 7) 山崎陽菜、定行まり子「学童保育所における子どもの行為に要する面積からみた空間構成に関する研究」日本建築学会計画系論文集、第77巻、第682号、pp.2723-2728（2012年12月）
- 8) 山田あすか、渡邊佐帆「学童保育施設におけるゾーンのつくりと児童の遊び様態の関係性についての事例的考察」日本建築学会技術報告集、第17巻、第35号、pp.271-276（2011年1月）
- 9) 山田あすか、大谷優、倉斗綾子「学童保育拠点における所要面積の算出に関する試論 児童の活動面積と遊び種類、スタッフによる広さ感評価に着目して」日本建築学会計画系論文集、第77巻、第672号、pp.309-318（2012年2月）
- 10) 中川春香、山田あすか「学童保育拠点の運営実態の把握とそれに基づく人数および面積規模に関する研究 スタッフに対するアン

- ケート調査に基づく分析」日本建築学会計画系論文集, 第79巻, 第695号, pp.69-78 (2014年1月)
- 11) 中川春香, 山田あすか「学童保育拠点における遊び種類に着目した適正規模に関する研究 都内の学童保育拠点への調査にもとづく考察」日本建築学会計画系論文集, 第80巻, 第707号, pp.31-41 (2015年1月)
  - 12) 中園真人, 後谷一機, 山本幸子, 牛島朗「農家住宅納屋を改修した児童クラブハウス「つばめの家」の夏休み期間中の使われ方」日本建築学会計画系論文集, 第79巻, 第698号, pp.965-972 (2014年4月)
  - 13) 中園真人, 大和聡羅, 山本幸子, 孔相権, 牛島朗「学童保育施設における平日放課後の集団規模と使われ方の関係—農家の納屋を改修した2室3領域型児童クラブハウス「つばめの家」の事例研究—」日本建築学会計画系論文集, 第81巻, 第723号, pp.1207-1215 (2016年5月)
  - 14) 鈴木佐代, 豊増美喜, 藤原陽子, 才田えり, 三好麻央「放課後児童クラブの生活環境整備に関する研究 提供されるおやつと食べる空間の実態」日本家政学会第64回大会研究発表要旨集, p.94 (2012年5月)
  - 15) 秋武由子, 鈴木佐代, 豊増美喜, 岡俊江「放課後児童クラブの生活環境整備に関する研究 その7 台所整備に向けたおやつの提供と保管の事例分析」福岡教育大学紀要, 第65号, 第5分冊, pp.151-157 (2016年2月)
  - 16) 記念誌部会「春日市学童保育20周年記念誌 ただいま」(1998年)
  - 17) 特定非営利活動法人子ども未来ネットワーク春日事務局「平成25年度春日市学童保育(放課後児童クラブ)入所のしおり」
  - 18) 春日市市勢統計 [最終更新日 平成28年4月25日]  
[http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/siseijoho/shiryou/shiseitoukei/12\\_education/](http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/siseijoho/shiryou/shiseitoukei/12_education/)

